

国際旅行と 第18号 旅仲間通信

発行：株式会社 国際旅行 JR網干駅北口正面
電話：079-273-2421

秋の謝恩企画発表!

地域の皆様、こんにちは。10月に入り、朝晩は肌寒さを感じ、「秋になったなあ」と実感する今日この頃ですが、いかがが過ぎるのでしょうか、秋といえは定番ですが、食欲の秋、芸術の秋、スポーツの秋、読書の秋・・・様々な楽しみ方があります。そして、もちろん旅行も本番一秋になる。紅葉はもちろん旬の当地グルメ、散策といったテーマが最も輝く季節に入ります。

秋の楽しみ方は本当にたくさんあります。カメラを持って出かける人もいれば、胃薬を持って出かける。(笑)人もいろいろでしょう。そんな皆様の想いに応えべく、私たち国際旅行は、精一杯の企画を考え、発表します。

今秋のふれあいツアーは大謝恩祭と銘打ち、魅力満点の秋のツアーを、低価格でお届けするのを目指してまいりました。もちろん、価格を下げたからといって、国際旅行品質は維持しておりますのでご安心ください。

価格にこだわったお買物ツアーや、企画担当者の粘り強い交渉で実現したカニづくし、地元産物だから夜の帰着も安心できるイルミネーションやライトアップ企画など、とにかく大謝恩祭に恥じない企画盛りだくさんでお届けします。

今年の秋は、私たちが一緒にカメラを持って、美しい・美味しい日本の秋を満喫しましょう。スタッフ一同、あなたの参加、心よりお待ちしております。

(社長 門田真実彦)

新しい仲間が加わりました!

「憧れの職業!」の喜びを忘れず、お客様のために!

10月5日(月)から、新たな仲間として井上潤一君が国際旅行に加わるのになりました。彼はまた大阪の専門学校で旅行の勉強中ではありますが、研修生として頑張ってくれております。当社において、若さを存分に発揮してお客様のために頑張ってくれるものと確信しております。素晴らしい人材



忘・新年会でもお役に立ちます!

「えっ?」と思った方、必見です。国際旅行は、忘年会・新年会でも皆様のお役に立ちます。それは、バスの手配や、宴会場の手配です。飲酒運転は絶対に駄目ですから、忘年会に行くのにも貸切バスで楽々・安心。宴会場だって、旅行会社だから予約できる場所があります。幹事さんも予約の煩わしさを解消。これ、一石二鳥。まずは気軽に「相談」くださいませ。

他にも、例えば裏面に掲載

です。そんな彼に一言、抱負を語ってまいりました。

「旅行業は、小さな頃から憧れの職業でした。その夢を叶えるために大阪の旅行専門学校へ行き、今、研修生としてですが、旅行会社のスタッフとして働くことが出来るだけでも嬉しい気持ち一杯です。」

素直で、本当に良い仲間になってくれそうです。今はまだしている「かにつくしツアー」を使って忘年会をしたいなあ・・・。と思うたらず、まずはお電話をください。同じ内容のツアーを、あなたたちのグループで貸切出発させることだって可能です。人数によって、若干値段の上下はありますが、現地の予約が取れる日程も限られる可能性がありますが、日帰り旅行での宴会プランはとってもお得で好評ですよ。

とにかく、忘・新年会だつて、国際旅行に相談して損はありません! まずは、「希望」を相談くださいませ。どんなことでも、私たちは皆様のお役に立ちますよ!

持ちを引き締めております。

そして、今回も継続してボランティアスタッフを募集させていただきます。一人でも多くの地域の方々を読んでいただきたい。決して広告収入などを考えることはせずに、魅力ある紙面を作り続けたい。そんな想いに共感していただける方がいらつしやいましたら、1枚から結構です。お友達、近所さんへ配布していただける方を募集します。興味のある方は079-273-2421 ボランティアスタッフ様まで

感謝! 旅仲間通信ボランティア配布スタッフ!

ありがとうございます&よろしくお祈りします!

だ、直接お客様に聞ける機会はないかもしれないけれども、「来店いただければ彼が一生懸命に働く姿を見る」ともできると思います。その時は、ぜひ一言「頑張ってるね!」と温かい言葉をかけていただければと思います。

(社長 門田真実彦)

遂に発表!

お客様参加型企画

大変お待たせいたしました! 前回の紙面上でも案内しておりました山下智鶴子さんの「家電リサイクル工場見学と菊花展 企画」、女子町在住のH・Tさんの「神戸アウトレット巡りとお洒落なランチ」企画が完成しました。どちらの企画もご本人の熱い気持ちがこもった素晴らしい内容に仕上がっております。

当社でツアー企画の中心スタッフが何度も電話で確認をしながら、ご希望を伺い、ようやく完成した商品です。ご本人はもちろんのこと、多くのお客様に参加していただき、一人でも多くのお客様に喜んでいただければ幸いです。

お客様参加型企画会議を進めていく感じるのは、本当にお客様はいろいろな情報を「自身で収集」され、旅に求める思いも十人十色です。多くの旅行会社は、同じでも会社ごと、都合のいいツアーを作りがちで、お客様の気持ちを置き忘れていくと感じることがあります。今回はその想いを痛感させられたことはいままでです。少なくとも国際旅行は、このお客様の気持ちを大切にしながら、本当に喜んでいただける商品企画していこうと思っております。完成した商品の詳細は裏面をご覧ください。いーあなたのお申込を、お待ちしております。

国際旅行物語

第十六話

「涙からの決意」

従兄弟が亡くなった平成十五年、私は(社)藤野青年会議所の理事長を拝命していた。従兄弟が病気になる前年に決まっていたことだったのだが、あまりにも私にとって「きつ」「苦しい」一年だった。

青年会議所の行事で毎日のように走り回り、従兄弟の担当していた仕事も引き継ぎ、体がいっぱいあっても足りないような日々だった。正直、体力が続くどころかと自分で不安になったことを記憶している。

しかし、そんな時でも私を奮い立たせ、そして勇気づけてくれたのは、やはり亡き従兄弟だった。あの頑張りを目の当たりにして「ここで負けるわけにはいかん! 弱音を吐くことは出来ひん!」と、何れも何れも自分に言い聞かせていた。

私にとって、最も身近で、最も近い存在で、最も頼りにしていた人が突然いなくなってしまう。ショックは、計り知れないものだった。従兄弟のことを思い出せば涙が出て止まらなくなるとは無かった。

それと同時に、私は本当の意味で従兄弟に喜んでほしい、地域に役立つ会社を目指すためには、いつまでも悲しんでばかりはいられないことも理解していた。今後の国際旅行をどう発展させていくか、そのために何をやる必要があるのか? 私は毎日必死になって考えていた。

そんな私の想いや動きを考えたのがあったのか、当時社長であった父から、「社長を交代しよう」との言葉があった。

平成十五年十一月一日、私は創業者である初代社長の父の跡を継いで国際旅行の二代目社長に就任したのである。

私の中では、従兄弟の死をずっと前向きに捉えることができ、そして青年会議所の理事長という役職を大過なく過すことが出来た結果、社長就任したように思っていた。涙を流した数ヶ月その中から得た「人間」としての成長が必要であるはずである。それを何らかの形で会社生活に活かしていきたい。

大きな夢と決意を持って社長として前進していこうと心に決めたのであった。二十七歳の若輩者の小さな小さな決意だった。「今から、ここから!」そう思っていた。(次号へ)